

2011年7月29日

(ご参考)

**マツダ株式会社**  
**2012年3月期 第1四半期決算説明会**  
(スピーチ要旨)

**代表取締役**

**副社長執行役員兼CFO(最高財務責任者)**

**尾崎 清**

2012年3月期 第1四半期の実績を総括し、次にその詳細をご説明し、最後にまとめをいたします。

**1. 総括**

第1四半期の売上高は4,081億円、営業損失は231億円、当期純損失は255億円となりました。グローバル販売台数は、日本を中心とした震災影響等により、対前年11%減の28万1千台となりました。商品面では、SKYACTIV元年の今年、SKYACTIV-Gを搭載した新型デミオを、国内向けに投入いたしました。予約受注開始後 現在までに、計画を大きく上回る受注を頂いており、好調な滑り出しとなっております。商品品質でも、高い評価を獲得いたしました。JDパワーが実施した2011年米国自動車初期品質調査において、前年の18位から5位に大幅にランクを上げています。また、販売面では、オーストラリア、中国、タイ、メキシコ、インドネシア、マレーシアで過去最高の販売台数またはシェアを獲得するなど、新興国を中心に好調な販売モメンタムを継続しています。国内外の生産は、6月に公表した通り、第1四半期後半より定常操業へ回復しました。第1四半期は予定通りの進捗です。通期200億円の営業利益見通しに変更はありません。また、グローバル販売台数も当初見通し通りです。

**2. 2012年3月期 第1四半期実績**

2012年3月期 第1四半期の連結営業損失は231億円と、前年同期に対し295億円の減少となりました。この内訳については後ほどご説明しますが、主に、震災影響により台数が減少したことによるものです。また、特別損失として震災影響37億円を当四半期に計上いたしました。その結果、税引前損失は306億円、当期純損失は255億円となりました。

グローバル販売台数は、前年に対し11%減少の28万1千台、出荷台数は、前年に対し31%減少の18万6千台となりました。震災影響の大きかった日本をはじめ、ほぼ全ての市場で台数減となりましたが、日本やロシア、オーストラリアなどでシェアアップを達成するなど、販売モメンタムを継続しております。国内生産台数は前年に対し、20%減少の17万8千台となりましたが、予定通り第1四半期後半より本格安定生産に回復しました。為替レートは平均で、1ドル82円、1ユーロ117円と、前年に比べ、ドルで10円の円高となっております。

販売実績を主要市場ごとに、ご説明いたします。

まず日本ですが、販売台数は3万5千台、シェアは0.1ポイントアップの4.6%を獲得しました。新型デミオは、予約開始から現在までに、計画を大きく上回る受注をいただいております。具体的な数値に関しては、8月初めに別途発表いたしますので、ご期待いただきたいと思います。また、受注台数に占めるSKYACTIV-G搭載車の比率は計画を大きく上回っています。SKYACTIV TECHNOLOGYに対する高い期待や関心と、商品としてのバリューに対する高い評価を、お客様よりいただいております。通期では、SKYACTIV商品群を中心に台数ボリュームを確保し、前年並みの20万7千台の見通しです。

北米での販売実績は、ほぼ前年並みの8万6千台、米国販売もほぼ前年並みの5万8千台となりました。米国における残存価値では、Mazda3及びCX-9が引き続きセグメント中トップを獲得するなど、ブランド価値は引き続き向上しています。冒頭で申し上げた通り、2011年米国IQSにおいて総合で5位にランクされました。これは、従来より取り組んでいる品質改善活動の強化による成果です。メキシコでは、好調なCX-7が販売増に貢献し、過去最高となる販売台数と、過去最高のシェア 3.2%を獲得しました。通期では、北米最初のSKYACTIV TECHNOLOGY搭載モデルである新型Mazda3の市場導入と、メキシコへMazda2を新規導入することで販売増を図り、対前年1%増の34万6千台の見通しです。

欧州では、4万4千台の販売となりました。需要が好調なロシアでは、強いブランド力を背景に、Mazda3、Mazda6、CX-7など主力車種の好調な販売により、前年の2倍となる8千台の販売と、0.4ポイントアップの1.2%のシェアを獲得しております。通期では、限定車導入や効果的なマーケティング施策の実施、また、需要の拡大が続くロシアを中心に経営資源を効果的に投入することで販売の底上げを目指し、20万2千台の見通しです。

中国では、Mazda3など主力車種が販売を牽引し、過去最高となる5万3千台を達成しました。シェアは前年と同レベルの1.2%を維持しています。店舗数は前期末から11店舗増加の323店舗と、販売網の強化も着実に進捗しています。今後も内陸部、沿岸部空白地域への出店を加速し、年末までに370店舗以上に拡大する予定です。通期では、新型Mazda3の導入による拡販や、効果的なマーケティング施策及び販売網の拡充を実施し、前年を14%上回る27万台の見通しです。

その他市場では全体で、6万3千台の販売となりました。オーストラリアではMazda2、Mazda3などの主力車種が好調な販売を継続し、シェアは前年より0.6ポイントアップし過去最高となる8.4%を獲得しました。タイではMazda3、BT-50の販売好調により、過去最高の販売台数を達成しました。また、インドネシア、マレーシアで過去最高の販売台数、及びシェアを獲得するなど、アセアンでも好調な販売を継続しております。通期では、オーストラリアへのSKYACTIV TECHNOLOGY搭載の新型Mazda3、AAT製新型BT-50の導入や、各市場での主力車種の拡販を通じて、対前年1%増の28万台の見通しです。

次に、連結営業利益の前年に対する減少額、295億円の主な要因についてご説明いたします。

まず、台数構成では、震災影響による台数減等の影響もあり 317億円の減少となりました。次に為替ですが、円高影響により、USドルで38億円の悪化、ユーロで2億円の悪化、その他通貨の9億円の改

善と合わせて31億円の悪化となりました。変動コスト領域では、原材料の高騰影響がありましたが、コスト改善によりオフセットしました。また、その他 固定費領域でも50億円の改善を達成しています。

四半期ごとの国内生産台数と利益のトレンドを説明します。お取引先様のご協力により、第1四半期では

17万8千台の生産、稼働率は72%となりました。第2四半期以降の計画については、当初見通しどおりとしていますが、可能な限り前倒しを図っていきたくと考えております。営業利益は、生産台数の拡大に伴い、第2四半期に黒字転換、第3四半期以降も利益レベルが拡大する見通しです。

第1四半期231億円の営業損失から、第2四半期では黒字転換する内訳ですが、まず、台数・構成では、第1四半期から第2四半期にかけて、震災影響から回復し、出荷台数が7万8千台の増加となります。主に台数増の影響により、200億円の改善となります。コスト改善及びその他の固定費領域では、SKYACTIV搭載車両導入に伴い、販売費用は増加するものの、生産台数増に伴って コスト改善が加速し、ネットで62億円の改善となります。

### **3. まとめ**

第1四半期は震災影響等もあり、売上高は4,081億円、営業損失は231億円、当期純損失は255億円となりました。第2四半期以降、国内向け新型デミオに引き続きSKYACTIV TECHNOLOGY搭載車両を導入し、台数・構成の改善及びコスト改善の加速により黒字に転換し、利益を拡大させてまいります。通期200億円の営業利益見通しに変更はありません。SKYACTIV-G搭載の新型デミオは、好調な出足です。予約受注開始後 現在までに、計画を大きく上回る受注をいただいております。販売面では、新興国を中心に好調な販売を継続しています。オーストラリア、中国、タイ、メキシコ、インドネシア、マレーシアで過去最高の販売台数またはシェアを獲得しました。

新世代技術SKYACTIV搭載モデルの投入は予定通りです。国内向け新型デミオに引き続き、2012年3月期後半、SKYACTIV-G、SKYACTIV-Drive搭載の新型Mazda3を主要市場へ導入いたします。2012年には、SKYACTIV技術を全面的に採用した新型CX-5をグローバルに導入いたします。更に、来期以降、収益拡大のドライバーとしてSKYACTIV搭載モデルを順次導入してまいります。新興国への取り組みも加速しています。6月には、中南米ビジネスの強化を目指し、メキシコでの工場建設、ブラジル市場への参入を発表いたしました。新興国ビジネス戦略の新たな柱として、成長市場での販売拡大とコスト競争力の確保を図ってまいります。また、アセアン、中国での成長戦略も引き続き推進しています。アセアンでは、AATの活用を更に進め、アセアン域内での現地生産や完成車輸出などを、各国の税制や貿易自由化の状況を考慮しながら 進めてまいります。また、インドネシアでの商品ラインアップ拡充やマレーシア、ベトナムなどでの販売網の拡大により、成長市場での販売拡大を図ります。中国においても、40万台販売体制に向けての準備を整えつつあります。現地生産・組立モデルの拡充や販売網拡大を進め、今後も引き続き成長を目指し、販売拡大を図ってまいります。

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。